三重県鈴鹿市

1　研究テーマ及び研究の観点

⑴　研究テーマ

表現する力を養い，創造性を豊かにする活動

⑵　研究の観点

少子化，核家族化等，社会の変化は幼児の生活にも影響を及ぼしており，幼児が直接「見て，感じて，考えて」体験する機会が少なくなっていることから，人間関係の構築や共感・感動を通じた豊かな心の育成等に関する課題も見られる。また，幼児は，意欲的で積極的な半面，受け身で指示待ちの言動も見られ，主体性の弱さがその姿に現われている。このような状況や子どもを巡る課題を踏まえて，生活や学びの基盤となる表現力や創造性を豊かにする活動の在り方について調査研究を進める。

2　地域の概要

⑴　人口　　202千人（平成20年５月１日）

⑵　地域の概要

地域の範囲（市区町村名等）	人口	幼稚園		小学校		保育所	
		幼稚園数	幼児数	学校数	児童数	保育所数	幼児数
鈴鹿市	千人 202,782	園 公　23 私　8	人 895 2,011	校 公　30	人 12,802	園 公　10 私　28	人 1,251 3,194
合計	202,782	31	2,906	30	12,802	38	4,445

⑶　これまでの取組及び課題

・心揺さぶられた経験は心に残り，ため込まれ，共通のイメージをもって，言葉やからだで伝え合い，様々な表現活動や遊びに活かされている。心動かす体験から身近な人に自分の感じたことを伝えようとするためには，多様な体験が有効なことがわかった。今後，幼児にとって，心に響く豊かな体験とは何か，さらに，豊かな体験を積み重ねる，体験と体験の関連性についても共通理解したうえで実践研究を進める。

・地域の人材を活用し，地域性を生かした実践をすることで，幼児を中心として保護者や地域の関心を集め，幼稚園が地域や保護者とつながっていく機会を設け，地域に根ざし，安定した環境の中で幼児の活動ができるようにする。

・参画型保育参加によって幼児とともに保護者も新たな発見や体験の場を広げることができた。地域の人の温かさは，親子の心の中に心地よい体験として残り，相手に心を開くことができた。ふれあいから生じた親しみの感情は，信頼関係を育んでいく。今後も幼稚園が家庭と地域社会を結ぶネットワークの一助を担っていく必要がある。

・取り組んだことを，参加者を対象にアンケートをとり，参加できなかった保護者に伝えたり，家庭で両親が学習できるよう工夫したりする。

3　研究協力機関

⑴　事業の実施体制

①調査研究実行委員会

鈴鹿市立公立幼稚園長・教諭

鈴鹿市教育委員会事務局指導課

②研究協力園の概要

（平成20年５月１日現在）

幼稚園名	幼児数	学級数	専任教員数
鈴鹿市立国府幼稚園	４歳児　35名	1	4
	５歳児　19名	1	
鈴鹿市立白子幼稚園	４歳児　27名	1	4
	５歳児　26名	1	
鈴鹿市立牧田幼稚園			4
	５歳児　31名	1	
鈴鹿市立河曲幼稚園			4
	５歳児　18名	1	

⑶　専門家の活用

幼小連携アドバイザー（元公立幼稚園長）

4　研究の内容

⑴　研究協力園の取組

併設する小学校と連携し，小学生，地域ボランティア，地域の高齢者，未就園児と交流をする中で，自分の思いを話し，受け止めたり認められたりする喜びを実感するとともに，相手の思いを感じ取り，あたたかい人間関係を築けるよう，様々な人とのかかわりを大切にする。

夢中になって自分の力を発揮する場面など，子どもたちの内側から自然と湧いてくるエネルギーを大切にして，さまざまな出会いや五感に響く直接体験の機会を整え，「相互にかかわり，ありのままの自分を表現し，豊かで

楽しい生活を創造していく力」を育てる研究に取り組む。

また，親も子もともに育つ幼稚園として，保護者による参画型保育参加やおしゃべり会，子育て講演会，国際教育講座等を実施する。

様々な人との出会いや交流を通して，あいさつなどの基本的な生活習慣の形成や人とかかわる力表現力，話を聞く力の育成を図る。

5　研究成果及び今後の課題

⑴　研究成果

・幼児は，集団生活の中で様々な人と出会い，自分の思いを伝え，相手の思いを受け止めながら自分らしさを発揮して成長していく。あたたかい人間関係の根底には，自分自身の心の安定，人に対する親しみの気持ちや信頼感が大切である。まず教師との信頼関係を基に，友達と一緒に過ごす生活を通して，安定した気持ちで園生活が送れる保育の環境づくりや援助ができた。集団生活の中では，自分の思いが通らない場面もあるが，一人一人が心を開き，豊かに感情表現することができた。

・子ども達が，心動かされる体験を通して，その感動や思い，考えを言葉に表わし，教師や友達に伝わる喜びや伝わることで共感し合える喜びを味わうと共に，相手の話を聞き，その内容を理解しながら，言葉で伝え合えることができるようになった。

・日々の活動の中で，教師や友達に自分の言動を認められたり，ほめられたりすることで，自分の良さに気付き，一人一人の子どもが自分に自信をもって取り組むことができるようになった。

・様々な人と出会い，つながる機会をつくることで子ども達は，人とのかかわりかたを知る。その中で，いろいろな体験をし，友達と一緒に繰り返し挑戦し，心が動いたときに子ども達は，自分のことを表現しようとする。園生活の中で，子ども達の話したい気持ちが発揮できるような場面の設定や，自分から話を出しにくい子には，教師から言葉がけをするなどして，みんなの前で話をする機会をもつようにしたところ，自分の考えに自信をもって話す様子がみられるようになった。

⑵　今後の課題

・４，５歳児の自然な交わりを核にした，合同・協働保育の中での様々な表現活動や，園生活の中での人間関係における表現の機会が，より豊かなものになるよう，今一度「主体性・創造性」の意味をそれぞれが問い直し，実践の中で検証していかなければならない。

・一つ一つの活動の教育的視点をより明確にし，事前準備・研修を充実させ，職員が主体的にかかわるよう努めた。特に，長期活動においては，昨年度の反省をもとに，活動計画を大枠で立て，実践過程で柔軟に見直しを図り活動を創造していったが，事後研修の場で，もっと振り返りを充実させて，来年度につなげていく必要性を感じた。

・様々な人に出会ったり，活動をしたりして，多様な体験を重ねる中で，一人一人の発達を援助できるようにしていきたい。子どもの心が動かされる体験が次の活動へとつながっていくことを考え，ひとつひとつの体験の関連性を図っていきたい。

・幼稚園での教育の成果を小学校につなげていくことが大切である。教師が意見交換などを通して，幼稚園と小学校の実態や指導の在り方について理解を深め，小学校との連携を図っていきたい。

香川県観音寺市

1　研究テーマ及び研究の観点

⑴　研究テーマ

豊かな感性・表現力を生きる力につなげる教育活動の創造

⑵　研究の観点

ひと，もの，ことへの豊かなかかわりをいかに創りだすか

2　地域の概要

・公立幼稚園８園　・私立幼稚園１園　・公立保育所６園　・私立保育所５園

これらの内，公立８幼稚園が研究推進協力園である。各園の研修主任を集めて本研究の推進にかかわる協議をして共通理解と，共通実践を図った。プロジェクト委員会は毎月１回設定し，２時間程度でディスカッションしている。２年次は特に感性や表現力を培う視点から日々の保育の環境の構成や教師のかかわり方の見直し，地域のものこと人の教材化，そしていつもと違う所にでかけての感動体験を通して感性をみがき表現意欲を高め方，またことばに親しむ生活を工夫し，絵本や短詩に親しむ機会をつくった。そのための手立てや実践結果をさまざまに検討しあった。

3　研究協力機関

観音寺市立幼稚園　８園を中心に研究を進めている。隣接の小中学校　13校，および県立高校が交流などの面で協力した。

4　研究の内容及び方法

信頼感，安定感を基盤として，感動体験，感性，表現意欲を大切にした保育実践を積み上げ，実践的な研究を通して，豊かに感じ，楽しく表現する力を培う活動を探求する。

①新鮮で，計画的な環境との出あわせ方・家庭，地域の教育力の取り入れ方と感動を共有する人々とのかかわり方

②多様な表現に広がる素材の扱い方　・個々に応じるかかわり方の工夫や思いを素直に表出できにくい幼児へのかかわり方

③心情や言葉が豊かになる方法や場の工夫　・地域につながるお話の活用と表現の工夫につながる援助の工夫

実践事例１

幼児が心を動かしたり豊かに感じたりする体験ができるように，環境の構成を工夫する。

１　ねらい・経験する内容

○　絵の具の感触や遊び方に興味をもち，思いのままに表現して遊ぶことを楽しむ。

・先生や友達がするのをまねたり，自分でやってみたりするおもしろさを感じる。

・やってみたことや感じたことなどを思いのままに言葉に出したり，伝えたりすることを喜ぶ。

２「描いて遊ぼう・ペンキやさん・フィンガーペインティング」

３　幼児の様子

絵の具を準備している教師に，「赤がいい」「水入れてこようか」「早く遊びたい」と，興味をもって見たり手伝ったりした。初めての場に抵抗があるＡ児は，みんなと離れた場から遊びの様子を見ていた。やってみたいけれど，きっかけがないのだと思い，指絵の具の場に誘い，教師がやって見せた。しばらくすると，教師のかいたものを手のひらで消すことを喜び，それを繰り返し楽しんだ。その後，自分でもかき出したので，紙に絵を写し取った。指で感触を味わったり「これなーんだ」と言ったりしながら，片付けをするまで遊ぶ姿が見られた。写した絵を貼っておくと「これＡ児がかいたんで」と得意そうだった。

はけやローラーを使って，大きい紙に思いのままにかいて，道や線路に見立てたり，手や足に絵の具を付けて，型が付くのを楽しんだりしていた。次第に大胆に表現しようとする姿が見られるようになってきた。ダンボールでつくった横長い三角柱を見つけると，形から山に見立てたり中に入ったりして遊んでいた。「山だよ！」と教師が絵をかき始めると，幼児たちも一緒にかき出した。しばらくして「先生，見て」というＢ児に応じて見に行くと，太陽や花がかかれていた。「お花が咲いたよ」と言うＢ児に「わあ！　お花が咲いたんだね。すてきだねえ。お日様が出て，お花も喜んでいるよ」と話すと，近くにいた幼児も集まって，絵からイメージを広げながら口々におしゃべりを始めた。

４考　察

○　伸び伸びとした表現ができるように，ダイナミックに遊べるような材料や表現の場を工夫することで，興味をもって取り組み様々な表現を楽しむことができた。

○　色を塗ったり描いたりしたものを使って遊んだり，偶然にできた模様からイメージを広げたりする姿がみられた。また，ダンボール箱を立てたり家や乗り物に見立てられるように置いたりしたことで，色を塗ったり絵を描いたりするだけでなく，使って遊ぶ楽しさにもつながった。

○　教師の近くにいることで安定して遊び，自分らしさを出しかけている幼児たちは，教師が遊んでいるところに集まってくる。教師がしていることに興味をもったり楽しんでしている遊びを一緒にまねてやってみたくなったりする。教師が感性やイメージを豊かにもち，幼児とともに遊びを楽しむことが大切だと感じた。

実践事例２　ことばに親しみ，ことばの世界に遊ぶ「みんなちがってみんないい」

２学期中頃，Ｅ児が時々口ずさむ歌。全部の歌詞は覚えていないが“みんなちがってみんないい”の部分がお気に入りのようで，そこになると言葉がはっきりしてくる。年長組もこの時期になると，友達のいろいろな面が分かってくる。クラスには，支援を要するＮ子もいる。いろいろな友達のよさやがんばり・存在を認め合えるクラスになってほしいと思っている。教師も，Ｅ児が気に入っている言葉に心を打たれ，ぜひ幼児たちに知らせたいと思った。Ｅ夫に言葉を聞くが，テレビで歌っている歌らしいが，よく分からないという。教師が何度も知りたいと言っていることを聞いたＮ児は，画用紙に鉛筆で，一気に何かを書きだした。

そして，書き終えると「はい！」と教師にその画用紙を渡した。そこには，Ｅ児が口ずさんでいた歌が書かれていた。Ｎ児が歌詞を書いてくれたことから，金子みすずの『わたしと　ことりと　すずと』というものであることが分かった。早速，詩を調べて掲示した。声に出して，友達と一緒に読んでいく。どの子も，最後の『みんなちがってみんないい』になると，声が弾む。言葉を言うから，すぐに気持ちや行動につながるとは思っていないが，詩を知ること・繰り返し友達と声や気持ちを合わせて言うことが，心を揺さぶることにつながっていくと思う。これからも，幼児たちの気持ちや育ちに合ったものに出会えるよう工夫したい。

【今年度各園で子どもたちにであわせた短詩】

・「晴れたらいいね」「こっつんこ」「あいさつ」「へびのいちのすけ」「あり」「おかあさん」
・「あさのであいは」「くも」「晴れたらいいね」「あらよっ」「もみじ」「朝のそら」
・「おれはかまきり」「ばったりおはつ」「であい」「大きくなるっていうことは」
・「ありがとう」「ほんき」「みんなちがってみんないい」「はきものをそろえる」
・「大自然のめぐみ」「おさるがふねをかきました」「みんな生きてる，みんなで生きてる」
・「ぐりとぐらの１年間」「おちば」「おもち」「ごはんをもぐもぐ」「ごめんなさい」
・「うたにあわせて」「背中のさかみち」「けっしん」「私と小鳥と鈴と」「まけじだましい」
・「はしるのが大好き」「トマトの歌」など

興味がもてる段階や内容から取り組み，言葉の魅力（言葉のリズム，話す心地良さ，自分で置き換える嬉しさ・楽しさ，親しい人と伝え合える喜び等など）を感じる幼児と語り方・扱い方を工夫する教師の姿が見られるようになった。

実践事例３　　友達と思いを伝え合う楽しさが味わえるような，もの・こと・人との出会い方を考える　－塩生山登山を体験することを通して－

①　ねらい

・山の秋や自然に触れながら，自分の力で山を登ることで満足感や達成感を味わう。
・里山ボランティアの人や同じグループの友達に親しみ，一緒に行動することを喜ぶ。
・感じたことを言葉や行動に表し，伸び伸びと伝え合う。

場　所…三豊市詫間町塩生（はぶ）山

参加者…４・５歳児（81名）は，４組混合の９人１チーム　９グループで活動する。

里山ボランティアの人は，１グループに１人～２人が一緒に行動する。

②　実践

＜里山ボランティアの人たちとの出会い＞「山登り楽しみやな」10月31日

園からバスに乗って，塩生自治会館前に到着。広場では，里山ボランティアの人12人と自治会長さんたちが待ってくださっていた。各グループに「山の先生」が付き，優しく自己紹介するとともに，幼児一人一人の名前を呼びながら声掛けをした。最初は，少々戸惑い気味の幼児たちも，親しい話し掛けに応じるようになってきた。山登りの前には，「塩生山」の由来（塩が初めてできた所の山）や山の歩き方の説明があり，幼児たちも興味深そうに聞いていた。

＜登山＞　　「さあ　出発」

民家のある道を少し歩くと，急に木々が増え薄暗くなった。「わぁー森みたい」「絵本に出てくるみたいやな」と感じたことをそれぞれに言葉で表す。感じ方や表現の仕方は様々。

「あっ鳥の巣箱がある」「海が見える」と友達や教師が言うと，「ほんまぁ。あった」とＳ子も答える。自然の不思議さや美しさには思わず声が出てしまうようで，その度，足を止め，周りの景色に目と心を向けていた。

少し歩くと「まだかな？」と年中児が言うと，標識の数字が読める年長児は「あと○○メートル」と言う。読めることと距離感は一致してはいないだろうが，年長児が言う言葉と数が少なくなっていっていることに納得したように歩き出す年中児。自分の声に応じてくれることは，こんなにも頑張る気持ちにつながることなのだと感じた。

＜山頂＞「着いたよ！　バンザーイ！」

約30分後，山頂に全員到着。「ヤッター」「頑張ったね」と里山ボランティアの人の声を聞き，ほっとしたり微笑んだりする顔からは，登りきった充実感が伝わってきた。

「ヤッホー」なぜだか山に登ると言ってみたくなる言葉。友達と気持ちを合わせてお腹から声を出す心地よさ・おいしい空気を吸いながら見る景色・夢中で拾ったどんぐり・家族がつくってくれたおにぎりのおいしかったこと・温かいまなざしでおしゃべりしたり遊んだりした里山ボランティアの人。様々な経験が一人一人の心を揺さぶり，心に残る体験となったと思う。

＜下山＞「楽しいなぁ♪」

登りとは違い，幼児たちの動きや気持ちに余裕を感じる。下りはつま先に力を入れて歩かないと，体が前

に倒れ走り出してしまう。思わず走ったり転んだりすることも，少しのスリル感を感じつつ楽しんでいる風に見られる。何度も何度も足がもつれ転びそうになるＳ児を見て，教師が「大丈夫？」と声を掛けると笑った。転んでも立って歩く姿から，たくましさを感じるとともに，こういう体験をしながら心が育ち，バランス感覚や体力が養われ運動能力も高まっていくのだと思った。

○　考察

・　園生活とは違う自然の中での体験は，心が開放され，自然に言葉を発したり伝えたい気持ちになったりしていた。自然のすばらしさと偉大さとともに，様々なことを共有体験するすばらしさを再確認した。園外保育の体験がこれからの生活の中で，思いを伝え合う楽しさにつながっていくと考える。また，山登りは自分の足で歩くことで，頑張ればできたという達成感が自信にもつながったように思う。これからも，一人一人の感じ方や表現の仕方を受け止め，豊かな感情（感動）体験ができるようなもの・こと・人との出会わせ方を考えていきたい。

・　この園外保育は，いろいろな人の協力を得て無事実施することから，子どもたちがたくさんの人に見守られて大きくなっていることを実感した。常に，今回かかわった人たちのような気持ちで，周りのいろいろな人とかかわっていくことが，幼児たちの温かい人間関係づくりにつながることを痛感した。

5　研究の成果と課題

⑴　研究成果

①子どもらしく素直に感じること，素直に表現することを楽しむ幼児が多くなった。

自分の言葉でしっかり話し，相手（先生・友達・身近な大人）の話をよく聞く様子が見られるようになった。

②経験の広がりを園内に活動として取り入れることや園外保育に出かけて体験を通して経験することなど，もの・こと・ひととの出会いを各園の実態や願いに応じて豊かに大切に展開されるようになってきた。

③　日々の保育の中で“環境の問い直し”がなされるようになった。変化する環境に出会っていく子どもたちの心持ちと丁寧にかかわることから“子どもの心を動かす環境とは，新鮮に感じる為の出会わせ方はどうなのか”等環境の見直しができてきたからである。

⑵　今後の課題

体験を通して豊かな感情と表現する力を培っていく考えは，新幼稚園教育要領への移行期にあってもさらに重要な面である。８園共通に研究できた財産を糧に，取り組んできた内容を浸透させつつ，さらに研修を続けていきたい。